

洋学に転じた漢学者 中村正直

平川祐弘

本日はお茶の水女子大学にお招きくださいまして有難うございます。今から六十五年前の一九三八年、私は大塚駅からバスに乗つて窪町を通り、お隣の教育大付属小学校、当時の高師の付属小学校に赤房の帽子をかぶつて通つておりました。バスはいつもお茶の水の付属女学校の女学生が一杯で、その大人びた人の間にはさまつてつぶされそうになつております。あの幅広いベルトの制服の人たちがなつかしく思い浮かびます。それは昭和十三年のことでした。ところでいまその年にコンパスの主軸を立てて針を過去の方へ百八十度廻すと、昭和十三年の六十四年前が一八七四年になりますが、その明治七年に皆様のこの学校は出来ました。当時は東京女子師範学校といった。これが日本における女子高等教育の始まりです。いや東アジアにおける女子高等教育の始まりです。ところでその学校を実質的に創つた初代の学長、当時は摂理といいましたが、は中村正直といいました。中村は明治初年には福沢諭吉と並び称されたほどの啓蒙思想家でしたが、本日はその中村正直の思想史的意味についてお話を申上げます。

日本は平安朝の昔には女性文化がたいへん栄えました。『源氏物語』を読みますと、千年前の日本人の心理がこれほど洗練されていたのか、と驚嘆せずにいたりません。男と女の心理は昔も今も変らない、ということをつくづく感じます。世界的に評価される日本人を一人選べといわれたら、それは『源氏』の作者紫式部という女であつて日本の男ではないでしょう。ではそれだけ活動した日本の女性の和文の文化はなぜ衰えたか。それは日本にも漢文の文化が伝わつて、とくに徳川時代には儒教がひろまつてそれが学問世界の主導権を握つた。ところがその孔子は男性中心主義でありまして『論語』の教える中に「子曰く、ただ女子と小人とは養ひ難し。これを近づくれば則ち不遜、これを遠ざくれば則ち怨む」とあります。貝塚茂樹は孔子を弁護して、この女子と小人とは使用人をさすので、女性一般ではない、と訛明しましたが、しかし女というのは大事にしてやればつけ上る

し、距離をおいて遠ざけると怨む、という観察にサイコロジカルな真理、本当のことがいわれている、と世間が感じたからこそ『論語』は広く尊ばれてきたのだと思います。ところで東アジアの学問は清朝の中国もその周辺のベトナムも朝鮮も日本も孔子の教えを尊ぶ儒教が何百年もの間、学問の中心でした。言葉は漢文です。徳川時代の日本の学問の中心はお茶の水にある昌平黌でそこで漢文による学問、漢学とか儒学とか呼ばれる学問が教えられました。

中村正直は私より一世紀前の人で一八三二年に生まれ、昌平黌で学び、成績優秀で抜擢され母校の昌平黌の首席教授になりました。幕末期の日本で一番優秀な漢學者は中村正直がありました。ところで昔も今も眞に優秀な学者のある者は自分の専門だけに躊躇しない。中村は漢文のみかひそかにオランダ語を学び、ついでこつそり英語も勉強しました。そして一八六六年に徳川幕府が初めて留学生をイギリスに送り出す時、志願してロンドンへ渡りました。世間は長い間中村はロンドンへ渡り理工系の勉強をする予定の十二名の二十歳前後の青年たちの監督として選ばれたと解説していましたが、そうではなかつたことが中村家の仏壇から中村の西洋渡航願いの文章が先年出て来てわかりました。中村は留学生たちは西洋文明の形而下の理工系の学問を学びに行くが、その若者たちと違つて自分は西洋文明の形而上の精神面を研究したい、と申し出で、その願いが容れられたのです。中村が尊敬した佐久間象山は東洋は道徳がすぐれ、西洋は技術がすぐれる、と言いましたが、中村は西洋は形而下の実学の面だけでなく、政治とか道徳とかの面でも東洋より進んでいるのではないか、と予感していたのかと思います。

ではロンドンで中村は何を学んだか。中村は帰国報告にこう書きました。

余尚記、童子時、聞清英交兵、屢大捷、其國有女王、曰維多利亞、則驚曰、眇乎島徼、出女豪傑乃爾、堂々満清、反無一箇是男兒耶、後讀海國圖志、有曰、英俗貪而悍、尚奢嗜酒、惟技藝靈巧、當時謂爲信然、及前年遊於英都、留二載、徐察其政俗、有以知其不然、今女王不過尋常老婆、含飴弄孫耳、而百姓議會、權最重、諸侯議會、亞次。

明治の日本では「セルフ・ヘルプ」が大切だ、ということをスマイルズの *Self-Help* を『西國立志編原名自助論』と訳すことで日本人に伝えたことです。これが功績の第一。いまその冒頭を読んでみます。

『西國立志編 原名 自助論』

彌爾（英國當今政學名家文化三年生）曰ク、一國ノ貴トマルルトコロノ位價ハ、ソノ人民ノ貴トマルモノハ、合併シタル位價ナリ、

（一）自ラ助クルノ精神

天ハ自ラ助クルモノヲ助ク（Heaven helps those who help themselves）ト云ヘル諺ハ、確然經驗シタル格言ナリ、僅ニ一句ノ中ニ、歴ク人事成敗の実驗ヲ包藏セリ、自ラ助クト云事ハ、能ク自主自立シテ、他人ノ力ニ倚ラザル事ナリ、自ラ助クルノ精神ハ、凡ソ人タルモノハ、才智ノ由テ生ズルトコロノ根原ナリ、推シテコレヲ言ヘバ、自ラ助クル人民多ケレバ、ソノ邦國、必ズ元氣充實シ、精神強盛ナル事ナリ、

○他人ヨリ助ケヲ受ケテ成就セルモノハ、ソノ後、必ズ衰フル事アリ、シカルニ、内自ラ助ケテ爲ストコロノ事ハ、必ズ生長シテ禦^{ふせ}グベカラザルノ勢アリ、蓋シ我モシ他人ノ爲ニ助ケ多ク爲サンニハ、必ズソノ人ヲシテ自己勵ミ勉ムルノ心ヲ減ゼシムル事ナリ、是故ニ師傅ノ過厳ナルモノハ、ソノ子弟ノ自立ノ志ヲ妨グ由子其有自^{スル}主之志行、

英文はこうです。

眞の民主主義は民意を重んじ、選挙によつて代議士を選びます。孔子に代表される中国人の国の統治についての考え方は「民ハ由ラシムベシ、知ラシムベカラズ」といいました。上意下達といつて政府中央の意思を下に押し付けるが、民衆の意思を上に汲み上げることには熱心ではなかつた。これは中国の伝統で大陸では今も本質的には変りありません。それに対しミルの発想は「民ハ知ラシムベシ、由ラシムベカラズ」でありまして、民衆にきちんととした情報を与え、政府やお上に頼るよりも自主自立の精神で自分で自分を助けることが大切だ、といいました。中村の啓蒙思想家としての功績は、土農工商の階級社会が消滅した後の競争社会に突入した

"Heaven helps those who help themselves" is a well tried maxim embodying in a small compass the results of vast human experience.

この翻訳は明治三年に出ましたが、日本で英語の書物が一冊まる」と訳された最初です。十九世紀の後半世界第一の大国は英國でした。産業革命後の英國はヴィクトリア女王の下で世界第一の国として繁栄を謳歌していました。その英國産業文明の偉大の秘訣は『西國立志編』に書かれているというから、明治の若者はこの本に飛び

つきました。『西國立志編』は福沢諭吉の『西洋事情』と並んで明治日本の最大のベストセラーとなりました。『西國立志編』はほかの修養書の類と違つて産業国家を建設するためには発明家や企業家が活躍しなければならないことが説いてありました。『西國立志編』には中村が漢文で「叙」をつけていますが、そのおかげで中国や韓国から来日した人もその部分は読むことができました。

自助論第二編叙

福哉、今日西國之民也。雖古帝王庸何及乎。昔者方隅自封。智識狹隘。今也四海交通。學問淵博。昔者教化不明。風俗慘刻。今也崇敬神明。志行虔誠。昔者君上專權。民如奴隸。今也人得自主。共謀公益。昔者法教有禁。強迫人心。今也任民自擇。王者不問。昔者俗尚勇悍。動生仇隙。今也人嗜道藝。互篤友愛。昔者商賈貿易。官府限制。今也信其自然。百物互通。昔者工事不盛。貨財不生。今也物料輸入。製造輸出。昔者房屋庫小。規制不備。今也華堂入雲。究極工巧。昔者器皿粗濶。資生有缺。今也供具精美。身心快適。昔者盤饌烹調。唯供土物。今也唐茶竺糖。朝涵夕濡。昔者山海遼闊。跋涉艱難。今也火車汽船。安坐行遠。昔者天涯地角。夢魂難達。今也電報告急。千里面談。昔者街衢夜黑。萑苻竊發。今也衝燈如晝。轂擊肩摩。昔者鷙魚不便。急難吞聲。今也一束一錢。達于四境。昔者貧氓傭工。得金輒使。今也銀舗收管。加子償還。昔者簡冊奇珍富人難聚。今也書籍充溢。寒士易致。昔者朝多秘景。野有鬱衷。今也廟論巷議。日印萬紙。蓋溯今五十年前。比之二百年之前。則不翅昏明晝夜之別矣。今日之西國。比之五十年之前。則又有高下霄壤之異矣。嗚呼如此福運。何由而致哉。得無非教化曰明。而人心嚮善之效乎。雖然。非有究水火之理。創造機器者。則德雖正。而用不利。生不厚矣。思此。則創造機器者之功德見焉。歲次上章敦牂孟夏下浣中村正直題於無所爭齋

中村正直が訳した『西國立志編』にはイギリスの産業化に貢献した人の苦心が具体的に書いてありました。この本が日本の工業化の国民的教科書と考えられる所以です。

中村たちが一八六八年早めに帰国したのは自分たちを留学に送り出した徳川幕府が瓦解してしまったからです。インド洋を横切つて戻つたら江戸はもはや江戸ではなく東京になっていた。幕府方の中村は都落ちをしました。幕府方の若者は将来に希望がもてなくなつた。沼津にいた中村はそうした人を励まそうと思つて「天ハ自ラ助クルモノヲ助ク」というSelf-Helpの日本語訳を始めました。そうしたらそれが明治のベストセラーとなつた。中村正直は幕末維新の日本で一番優れた漢学者といわれた人でした。その儒者が西洋へ行って勉強し、西洋研究者となつて、当時の言葉を借りれば洋学者として帰国した。ですから世間はこれからは漢学でなくて洋学、とくに英学の時代だと感じました。「自助論第二編叙」に「古ノ帝王庸ツテ何ゾ及バンヤ」儒教では古代の聖賢や堯舜の時代が理想でした。しかしそのようないい古えの帝王の盛世であろうとも、今日の西洋の繁栄には及ばない、というのが中村の見方です。いいかえると中村は古代中国を文明のモデルと見立てる儒者の考え方を排して近代西洋を近代日本が学ぶべきモデルに切り換えました。この日本の方向転換を英語でいうとJapan's Turn to the Westになります。これは実はCambridge History of Japan の第五巻に私が寄稿した章のタイトルです。福沢諭吉は漢学者の旧弊を笑つて「その効能は飯を食ふ字引に異ならず。國のためには無用の長物。(学問のススメ)」とひやかしました。諭吉は明治維新前に三度も西洋へ渡つたことのある西洋通でしたから、彼の『西洋事情』は日本の開国前後に売れに売れました。吉野作造は中村と福沢の二人を批評して

影響感化の大なること、福沢翁の著訳と並んで、空前と称せられる。

と言っています。そして福沢は西洋の物質文明を伝え、中村は西洋の精神文明を日本に伝えた、といいました。では中村が示した西洋の道徳世界とはいかなるものであったか。『西國立志編』を読んだ日本人は西洋には技芸だけでなく道徳にも優れている面がある、と感心しました。引用を読みます。

一千八百五十二年第二月二十七日、英國ノ船、アフリカ海岸ニ沿テ行キケルガ、

忽チ船ノ底ハゲシク暗礁ノ中ニ透リ入り、暫時ノ間ニ、破レ沈ミヌベシト思フ程ナリ。曉第二時ノ事ナレバ、衆人睡リ居タリ。太鼓ヲ擂鳴シ、歩兵ヲ船上ニ召バ、操練ノ時ノ如クニ集ル。サテ「婦人小兒ヲ救ヘ」ト言ヘル声聞ユレバ、時ヲ移サズ、船底ヨリ寝巻ノママナル婦人小兒ヲ引揚ゲ、数箇ノ小舟ニ移シ拽キ去ラシム。コノ小舟、既ニ大船ヲ離レシ時、頭人心ナク喚ハリテ、「水ニ泳グコトヲ能クスルモノハ、跳リ入りテ、カノ小舟ニ取り付ケヤ」ト云ヒシカバ、船長ライト

「否々、モシ然セバ、カノ婦人ヲ載スル船ハ覆ルベシ」ト云ヘバ、船中ノ人ミナ堅ク立テ動クモノアラズ。抑モコノ外ニ余レル小舟一隻モナク、危難ヲ逃ルベキ

望ミアラズ。

然レドモ衆人心平カニ氣静カニシテ、一声ノ怨事ナク、一声ノ啼哭ナク、祝喜ノ火ヲ焼キツツ、コノ一群ノ英雄、船ノ沈ムニ隨ヒ、波濤ノ中ニゾ葬ラレケル。

嗚呼、カクノ如キ勇剛ニシテ、シカモ和靜ナル美ジキ人ノ儀範ハ、万世ノ後マデモ、永ク存シテ、涙ザルベシ。

徳川時代の日本の儒者の多くは中国や韓国の儒者と違つて侍です。武士です。その人たち孔子の教えの中でどのような教えを好んだかというと

身ヲ殺シテ仁ヲ成ス

「士ハ身ヲ殺シテ仁ヲ成ス」士はたとい自分の身を犠牲にしてでも仁義を行なう、死んでもよいから人の踏み行なうべき道を行なう、と儒者は言つていました。しかし清朝の中国にも李朝の朝鮮にも徳川時代の日本にも船が難破して女子供を救うために自分は死んだという儒者の話は聞いたことがない。

中村はヴィクトリア朝のイギリスで女子供が大事にされていることに感心しました。イギリスのホームというのはいいものだ、と思つたにちがいなし。ロバート・ブラウニングはLove is bestと夫婦愛を詩に歌いましたが、中村もブラウニングを引用したりしています。そしてイギリスのladyという理想を日本にも移し植えたいと思つた。中村は

「男女ノ教養ハ同等ナルベシ。二種アルベカラズ」と主張しました。

中村が『西國立志編』や『自由之理』を訳して有名になると、明治政府もほつておきません。沼津の田舎から東京に呼び出します。中村は大曲のところに同人社という塾を開いた。これは明治初年官立の学校が整備される以前は福沢の慶應義塾と並んでもつとも人気があつた。中村は江戸川聖人と呼ばれて尊敬されました。人気があつた理由の一つは慶應義塾も同人社も西洋文明を教えてくれたからでした。より具体的には英語を外人講師が教えてくれたからです。それが出来たのは福沢も中村も印税收入があり、それで西洋人教師を雇うことが出来た。中村は斬新なことをした。『論語』では男女は七歳で席を同じうせず、と教えているが、女子の入学を歓迎しました。東アジアからの最初の留学生を迎えたのも慶應義塾と同人社です。中村は明治初期の日本で非常に尊敬された学者でした。しかし出身が幕府方ですから明治政府の中枢にはいって働くことはできません。それで教育界で重きをなしました。お茶の水は徳川幕府のアカデミーであつた昌平黌ゆかりの地ですが、そこに女子師範学校、付属女学校、幼稚園が開設されると決まつた時、請われて初代学長となりました。

そこで中村は非常に見事な演出を行ないました。明治八年十一月二十九日、女子師範学校の開校式に皇后陛下の行啓をお願いいたしました。美子皇后はその年二十五歳、明治元年に一条家から明治天皇より二つ年上の姉様女房として入内されながら、この時はじめて公共の席に臨まれました。中村は西洋における女王、皇后の社会的役割を日本の皇室にも応用したのです。山川菊栄の母青山千世はその時の皇后様の姿を次のように回想しています。利発な青山生徒は緊張して、目をこらして、見つめていた。

皇后の髪はおすべらかし、お雛様の着つけのように美しく重なつた白襟の上に緋ぢりめんのきもの、緋の袴、その上にはおつたうちぎは、黄色地に紅で枝菊を浮き織りにしたもの。緋の袴の裾からは爪先のとがつたハイヒールがのぞいていました。まだ二十代のうら若い皇后はまことに匂うような美しさ。

そして中村校長は次のように祝辞を述べました。

した。

謹テ惟ミルニ、邦國文明ハ政治ノ善ナルニ関係シ、政治ノ善ナルハ家法ノ善ナルニ関係セリ。而シテ家法ノ善ナルハ婦人ノ心志端正、知識長進、及び操行ノ善良ナルニ由レリ。我国古今善行アル婦人ニ乏シカラズ。然レドモ邦國惣体ヨリ之ヲ觀レバ、婦人教養方法ハ甚ハダ欠タリトイフベシ。今ヤ文明ノ化漸ヤク進歩ニ趣キ、東京女子師範学校ノ設ケアリ。即ハチ今日臨駕アリテ開業式ノ盛舉アルヲ致スハ億兆人民ノ共ニ慶スベキコトナリ。仰ギ望ムラクハ、後來此ニ在テ學習卒業スルモノ善キ婦人トナリテ夫ヲ輔ケ、善種ノ人民ヲ生育シテ我國ヲシテ福祉安寧ノ邦タラシメンコトヲ。敬ンデ祝ス。

この祝辞は一方では儒教の『大學』の修身・齊家・治國・平天下の教えを踏まえ、その延長線上に女子教育を位置づけ、旧来の価値観に合致するように配慮し、他方では時代の大勢となつた文明史観を強調し、進歩の一つのあらわれとして女子教育を肯定しました。それは儒学者であると同時に洋学者であつた中村らしい折衷主義の主張といえると思います。いつの時代でも新しい考え方方は、なんらかの意味で旧来の伝統に連なることで市民権を得るものだからです。新旧二つの発想は混在し、共存していました。それによく見れば皇后様も日本のおきものを召していながら、履物には西洋のハイヒールを召しておられました。

校長の挨拶に続き生徒の一人が御前講説をしました。それはほかならぬ中村校長訳の『西國立志編』の一節でした。そしてその後生徒たちは控えの間で、金屏風を背にほのかに笑みをふくむ美しい皇后さまに御挨拶し、文部大臣の手から御褒美の製図用具一式を頂戴しました。美子皇后はフランクリンの十二徳を和歌に詠まれましたが、その一つ「勤勞」に手をいれて、

みがかずば玉も鏡も何かせむまなびの道もかく」そありけれ

の歌を明治九年二月東京女子師範学校にくださいました。それは「金剛石」の小学唱歌となり、奥好義の曲にあわせて歌は敷衍され、日本国中津々浦々で歌われま

金剛石も みがかずば
珠のひかりは そはざらむ
人もまなびて のちにこそ
まことの徳は あらはるれ

時計のはりの たえまなく
めぐるがじとく 時のまの
日かげをしみて はげみなば
いかなるわざか ならわらむ

フランクリンの「時間を空費するなけれ。つねに何か益あることに従ふべし (Industry—Lose no time; be always employ'd in something useful; cut off all unnecessary actions.)」の趣旨は右の小学唱歌の第二連によく出ていると思います。平成の今上陛下はアメリカへ行かれた時、スピーチでこの逸話におふれになりました。このフランクリンはスマイルズの思想的先駆者で一七〇六年生まれのフランクリンはGod helps them that help themselves「神ハ自ラ助クルモノヲ助ク」という格言を作りましたが、一八一二年生まれのスマイルズはHeaven helps those who help themselves「天ハ自ラ助クルモノヲ助ク」というより響きの良い格言に改めました。

漢文のたくみな中村は清朝シナから来日した中国知識人と筆談でよく付き合いました。清国公使館の黄遵憲がお茶の水に注目し、幼稚園を見て、漢詩でうたつていふことは御存知の方もあるうかと存じます。

この中村と清朝シナの改革派知識人との交際は注目に値します。次の引用は『自助論』第一編序ですが、興味深い発言です。

自助論第一編序

余譯是書。客有過而問者。曰。子何不譯兵書。余曰。子謂兵強則國賴以治安乎。且謂西國之強由于兵乎。是大不然。夫西國之強。由于人民篤信大道。由于人民有自主之權。由于政寬法公。

それから二十五年ほど後の一八九七年に康有為は『日本書目志』を著わしましたが、そこにはこう書いてある。

泰西之強不在軍兵砲械之末 而在其士人之學新法之書

これは中村の言葉に共感した康有為の言葉であることは明らかです。楊昌濟は日本と英國に留学し毛沢東の最初の妻の父ですが、一九一六年から七年にかけ雑誌『新青年』に寄稿し、次のように述べています。

天助自助者、乃英國教育家之格言。人人有獨立之精神、斯可鑄成獨立之國勢。

(楊昌濟『新青年』)

人の自助とともに民族の自助です。スマイルズが唱えたのSelf-help, national and individual「国家としての自助と個人としての自助」の必要でした。第一次世界大戦は終結し、年が明け、アメリカのウイルソン大統領は民族自決を唱えました。個人として自助自立を願う者は民族としても自助自立を願います。こうして「セルフ・ヘルプ」の精神の論理的帰結として崔南善は一九一九年、『三・一独立宣言書』を執筆するにいたりました。「我等ハ茲ニ我朝鮮國ノ獨立タルコト及朝鮮民ノ自由タルコトヲ宣言ス……」

この崔南善の『独立宣言書』の執筆にスマイルズの「セルフ・ヘルプ」の発想が直接的にとはいわずとも間接的に働いていたことは間違いないと思います。

中村正直は西洋から帰国する船上でSmiles, *Self-Help*を読み、深く感銘を受けHeaven helps those who help themselvesの格言を「天ハ自ラ助クルモノヲ助ク」と訳しました。そして号を敬天といたしました。字の字は宇宙の字で天と同じ意味だと思います。中村敬天では落着きが悪いから敬宇と号したのでしょう。中村はキリスト教的西洋にも儒教的東洋にも共通する教えは「敬天愛人」だと思いました。

ところで「天ハ自ラ助クルモノヲ助ク」と中国語で申す時、中国の方はこの「天」にお感じになりますか。「天助自助者」と中国語で申す時、中国の方はこの「天」に何をお感じになりますか。日本人は「お天道様」の「天」のような神道的な「天」ないしは儒教的な「天」、中国の方はやはり儒教的な「天」をお感じになると思います。しかし西洋人はHeaven helps those who help themselvesのHeavenにキリスト教のHeavenすなわちGodを感じるのではないでしょうか。スマイルズが一八五九年に*Self-Help*の冒頭に掲げた格言はフランクリンが一七五八年に暦に書き込んだ格言God helps them that help themselvesの書き換えだということは前にも申しました。

すると中村が唱えた敬天愛人の「天」はいかなる天であるか、ということが問題になります。この敬天愛人という言葉は日本では西郷隆盛の愛した言葉として知られています。西郷は度量の大きな人で、沼津に都落ちしていた中村のもとに薩摩藩の部下をつかわし、中村の教えを受けさせました。それで中村の教えが西郷に伝わったのです。そして西郷の口から敬天の言葉が発せられると、おのずから東洋的

な天の感じがいたします。中村の同人社には韓国から留学生が来ました。その人たちを通じてでしようか敬天愛人の教えは朝鮮半島にも伝わり、金大中大統領が座右の銘として「敬天愛人」の書をしばしば人に示しました。

中村は昌平黌の教授として禁書とされていたキリスト教関係の漢文著述もひそかに読んでいました。そしてキリスト教のゴッドと儒教の天は同じであり両者は共存可能である、と思っていた。中村は奉教士人などといわれた徐光啓などの漢文著述を読んでいたから一時期そう確信していたのです。しかし儒教の天とキリスト教の天主を同一としたのはマッテオ・リツチ漢名を利瑪竇というイエズス会宣教師がキリスト教布教の方便として考え出したもので、ローマのヴァティカン当局は認めませんでした。それやこれやで一時期儒教とキリスト教は両立し得るものと思いこんでキリスト教徒になつたかに見えた中村は晩年転向してキリスト教を離れました。

一八九一年、明治二十四年に亡くなり、葬儀は神道で執り行われました。私は日本における知識人の転向についてはたいへん興味深い問題だと思っています。コミュニケーションからの転向は普通結構なことと思われています。あるいはそれと似たような評価が明治期の日本人のクリスチヤニズムからの転向についても下されるかもしれません。ラフカディオ・ハーンは「西洋人宣教師は日本人の教え子が優秀であればあるほどキリスト教に留まる期間が短いことを発見して驚きかつ衝撃を受けた」と『ある保守主義者』の中に書いています。その葬儀の時中村の柩に従つたのは目の不自由な人、耳の不自由な人たちでした。それというのは英國の先例に感心し、日本で盲人のために盲学校を聾啞者のために訓練校を最初に開いた一人も中村正直だったからです。

日本にとって西洋文明を導入する際、最初に中村がスマイルズ『セルフ・ヘルプ』を一八七一年に訳したことは幸せでした。中国で最初に評判となつた西洋書物の翻訳は厳復がトマス・ハックスリーの *Evolution and Ethics* を『天演論』と題して日清戦争後の一八九八年に訳したことでした。「物競ヒ天折ズ、適スル者ノミ生存ス」というソーシャル・ダーウィニズムの教えは西洋列強によって半植民地化の憂き目にあいつつある中国人にとっては弱肉強食の帝国主義の時代の分析には役立ちましたが、そこにはスマイルズの書物のような産業国家建設の見取図がなかつた。

セルフ・ヘルプこそ人間の生き方の基本ですが、最後に自助と自己中心主義は違う、ということも申し添えたい。バーケンヘッド号の将兵が人々を感動させたのは彼らがLadies firstというジェントルマンの教えを身をもつて実践したからです。他人の助けを当てにしてはいけないが、しかし他人を助けることには人間としての尊ぶべきなにかがあります。それでは親はどこまで子供を助ければ良いのか、教師はどうまで学生を助ければ良いのか、先進国は開発途上国をどこまで助ければ良いのか。それは相手が自立できるように助けることが大切なことです。相手が過度に甘えることを許してはならない。またこちらが援助することによって相手を支配することを考えてはならない。私の結論は、

Help others help themselves
他人ガ自ラ助ケルコトノデキルヨウニ助ケヨ。

でござります。本日は御清聴たまわり有難うございました。